

平成 26 年度
島根県産業廃棄物実態調査報告書〈概要版〉
(平成 25 年度実績)

平成 27 年 3 月

島根県環境生活部環境政策課

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査対象期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査対象業種	1
(5) 調査対象廃棄物	1
2. 調査結果	2
(1) 農業を含む産業廃棄物の状況	2
ア 発生状況	2
イ 排出状況	3
(2) 農業、林業を除く産業廃棄物の状況	4
ア 発生状況	4
イ 排出状況	5
ウ 処理・処分状況	6
(3) 前回調査との比較	8
(4) 発生及び処理状況等の将来予測	9

1. 調査の概要

(1) 調査目的

島根県内における産業廃棄物の発生及び処理・処分状況等の実態を把握し、廃棄物処理計画策定のための基礎資料を得ることを目的とした。

(2) 調査対象期間

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの 1 年間

(3) 調査方法

排出事業者に対するアンケート調査（ただし、農業については資料調査）

調査件数 4,511 件

回収件数 2,710 件（回収率：60.1%）

(4) 調査対象業種

日本産業分類（平成 25 年 10 月改正）による大分類 19 業種（略称で表示）について調査

①農業、林業 ②漁業 ③鉱業 ④建設業 ⑤製造業 ⑥電気・水道業 ⑦情報通信業
⑧運輸業 ⑨卸・小売業 ⑩金融・保険業 ⑪不動産業 ⑫学術研究 ⑬宿泊・飲食
⑭生活関連 ⑮教育、学習 ⑯医療、福祉 ⑰複合サービス ⑱サービス業 ⑲公務

(5) 調査対象廃棄物

廃棄物処理法及び同法施行令に規定する産業廃棄物（20 種類）及び特別管理産業廃棄物（6 種類）を対象に調査

また、法令上廃棄物とならない有償物（事業場内等で生じたもので、中間処理されることなく、他者に有償で売却したもの及び他者に有償で売却できるものを自己利用したもの）についても調査

産業廃棄物

①燃え殻 ②汚泥 ③廃油 ④廃酸 ⑤廃アルカリ ⑥廃プラスチック類 ⑦紙くず
⑧木くず ⑨繊維くず ⑩動植物性残さ ⑪動物系固形不要物 ⑫ゴムくず ⑬金属くず
⑭ガラス陶磁器くず ⑮鉱さい ⑯がれき類 ⑰動物のふん尿 ⑱動物の死体 ⑲ばいじん
⑳以上の廃棄物を処分するために処理したもの

特別管理産業廃棄物

①廃油 ②廃酸 ③廃アルカリ ④感染性産業廃棄物 ⑤廃石綿等 ⑥特定有害産業廃棄物

2. 調査結果

平成 25 年度に島根県内で発生した特別管理産業尾廃棄物を含む産業廃棄物等の発生及び処理・処分状況は、以下のとおりである。

(単位：千トン／年)

発 生 量	全業種	農業を除く
	2,415	1,714
有 償 物 量	27	27
排 出 量	2,388	1,687

数値については、四捨五入の関係で総数と個々の数値の合計が一致しない場合がある。

(1) 農業を含む産業廃棄物の状況

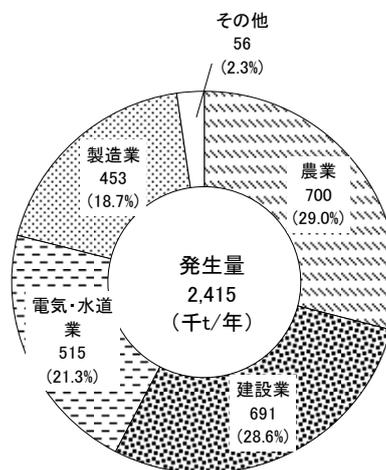
ア 発生状況

産業廃棄物の発生量は 2,415 千トンとなっており、業種別、種類別の発生状況については、次のとおりである。

①業種別発生量

●上位 4 業種で発生量の 97.7%

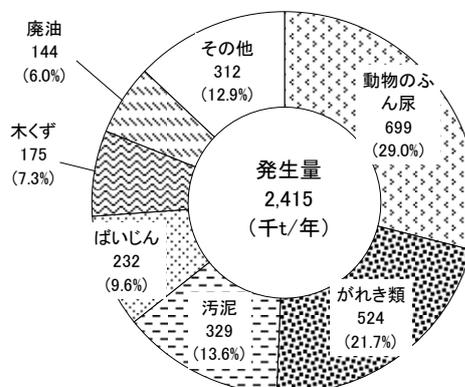
農業が 700 千トン (29.0%) で最も多く、次いで、建設業が 691 千トン (28.6%)、電気・水道業が 515 千トン (21.3%)、製造業が 453 千トン (18.7%) となっており、これら 4 業種で発生量の 97.7% を占めている。



②種類別発生量

●上位 6 種類で発生量の 87.1%

動物のふん尿が 699 千トン (29.0%) で最も多く、次いで、がれき類が 524 千トン (21.7%)、汚泥が 329 千トン (13.6%)、ばいじんが 232 千トン (9.6%)、木くずが 175 千トン (7.3%)、廃油が 144 千トン (6.0%) となっており、これら 6 種類で発生量の 87.1% を占めている。



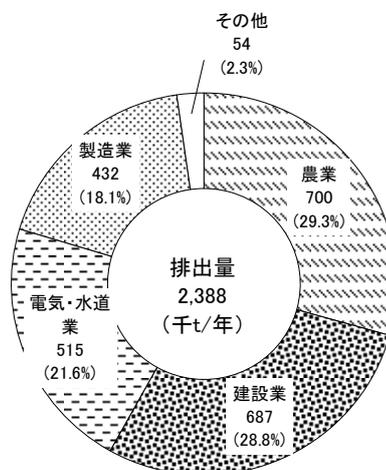
イ 排出状況

産業廃棄物の排出量は 2,388 千トンとなっており、業種別、種類別の排出状況については、次のとおりである。

①業種別排出量

●上位 4 業種で排出量の 97.7%

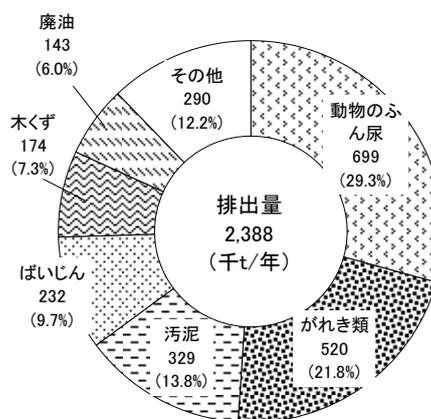
農業が 700 千トン（29.3%）で最も多く、次いで、建設業が 687 千トン（28.8%）、電気・水道業が 515 千トン（21.6%）、製造業が 432 千トン（18.1%）となっており、これら 4 業種で排出量の 97.7%を占めている。



②種類別排出量

●上位 6 種類で排出量の 87.8%

動物のふん尿が 699 千トン（29.3%）で最も多く、次いで、がれき類が 520 千トン（21.8%）、汚泥が 329 千トン（13.8%）、ばいじんが 232 千トン（9.7%）、木くずが 174 千トン（7.3%）、廃油が 143 千トン（6.0%）となっており、これら 6 種類で排出量の 87.8%を占めている。



(2) 農業，林業を除く産業廃棄物の状況

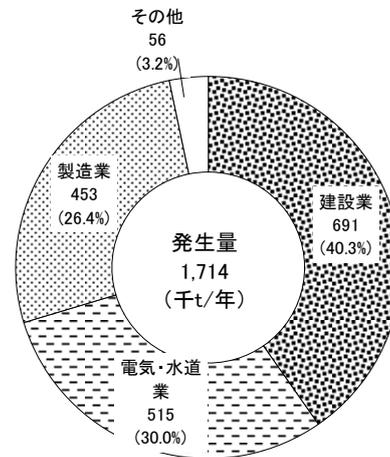
ア 発生状況

産業廃棄物の発生量は 1,714 千トンとなっており、業種別、種類別、地域別の発生状況については、次のとおりである。

①業種別発生量

●上位 3 業種で発生量の 96.8%

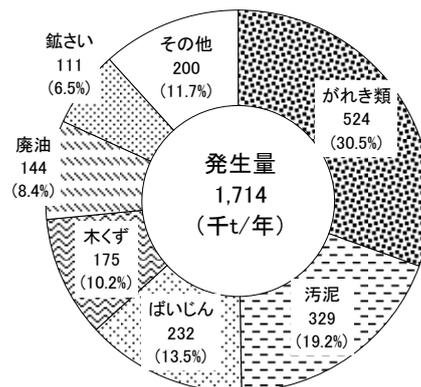
建設業が 691 千トン（40.3%）で最も多く、次いで、電気・水道業が 515 千トン（30.0%）、製造業が 453 千トン（26.4%）となっており、これら 3 業種で発生量の 96.8%を占めている。



②種類別発生量

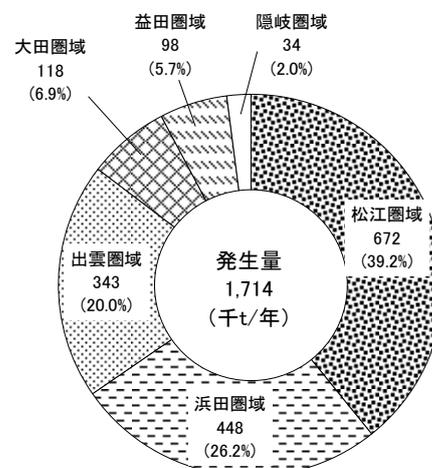
●上位 6 種類で発生量の 88.3%

がれき類が 524 千トン（30.5%）で最も多く、次いで、汚泥が 329 千トン（19.2%）、ばいじんが 232 千トン（13.5%）、木くずが 175 千トン（10.2%）、廃油が 144 千トン（8.4%）、鉱さいが 111 千トン（6.5%）となっており、これら 6 種類で発生量の 88.3%を占めている。



③地域別発生量

発生量（1,714 千トン）を地域別にみると、松江圏域が 672 千トン（39.2%）で最も多く、次いで、浜田圏域が 448 千トン（26.2%）、出雲圏域が 343 千トン（20.0%）、大田圏域が 118 千トン（6.9%）、益田圏域が 98 千トン（5.7%）、隠岐圏域が 34 千トン（2.0%）の順になっている。



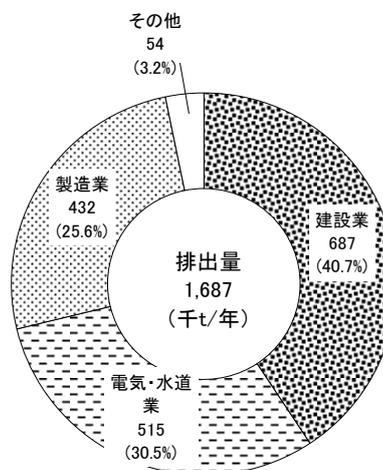
イ 排出状況

産業廃棄物の排出量は 1,687 千トンとなっており、業種別、種類別、地域別の排出状況については、次のとおりである。

①業種別排出量

●上位 3 業種で排出量の 96.8%

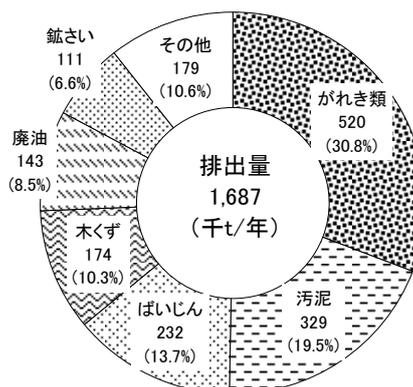
建設業が 687 千トン（40.7%）で最も多く、次いで、電気・水道業が 515 千トン（30.5%）、製造業が 432 千トン（25.6%）となっており、これら 3 業種で排出量の 96.8%を占めている。



②種類別排出量

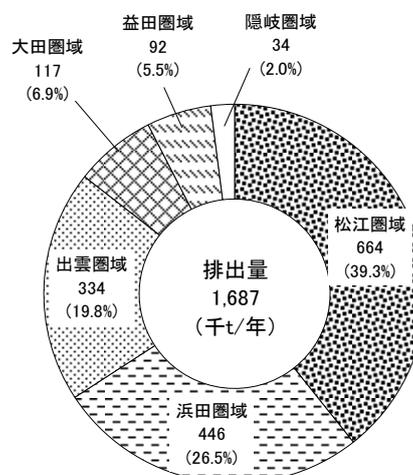
●上位 6 種類で排出量の 89.4%

がれき類が 520 千トン（30.8%）で最も多く、汚泥が 329 千トン（19.5%）、ばいじんが 232 千トン（13.7%）、木くずが 174 千トン（10.3%）、廃油が 143 千トン（8.5%）、鉱さいが 111 千トン（6.6%）となっており、これら 6 種類で排出量の 89.4%を占めている。



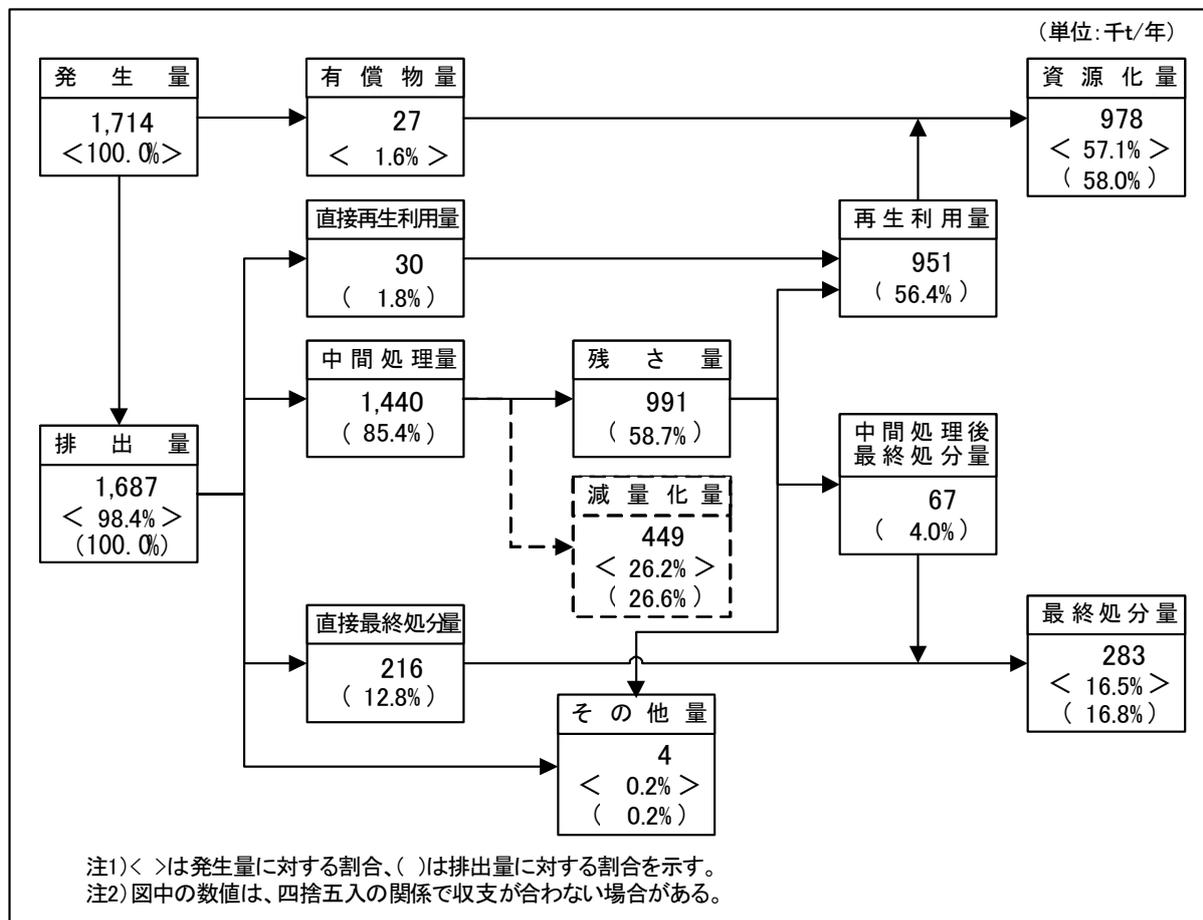
③地域別排出量

排出量（1,687 千トン）を地域別にみると、松江圏域が 664 千トン（39.3%）で最も多く、次いで、浜田圏域が 446 千トン（26.5%）、出雲圏域が 334 千トン（19.8%）、大田圏域が 117 千トン（6.9%）、益田圏域が 92 千トン（5.5%）、隠岐圏域が 34 千トン（2.0%）の順になっている。



ウ 処理・処分状況

産業廃棄物の発生・排出から処理・処分の流れは下図のとおりであり、排出量 1,687 千トンのうち再生利用量は 951 千トン（排出量の 56.4%）、中間処理による減量化量は 449 千トン（同 26.6%）、最終処分量は 283 千トン（同 16.8%）となっている。

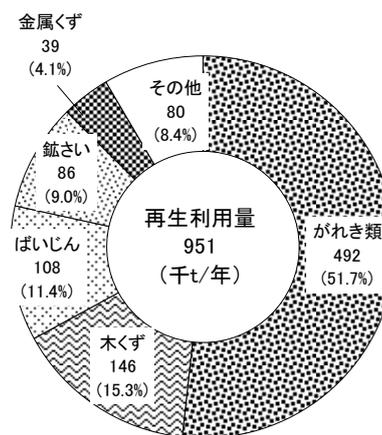


発生・排出及び処理・処分状況の流れ図

①再生利用量

●上位4種類で再生利用量の87.5%

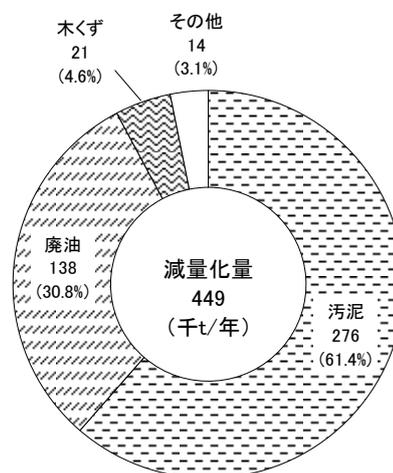
がれき類が492千トン(51.7%)で最も多く、次いで、木くずが146千トン(15.3%)、ばいじんが108千トン(11.4%)、鉱さいが86千トン(9.0%)等となっている。



②減量化量

●上位3種類で減量化量の96.9%

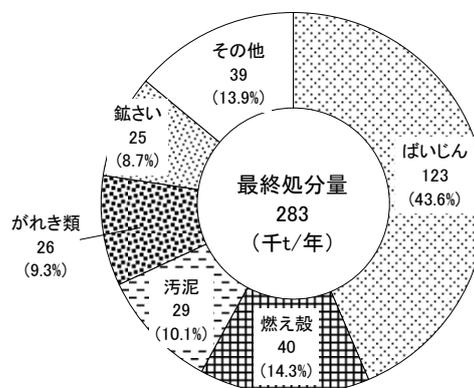
汚泥が276千トン(61.4%)で最も多く、次いで、廃油が138千トン(30.8%)、木くずが21千トン(4.6%)等となっている。



③最終処分量

●上位5種類で最終処分量の86.1%

ばいじんが123千トン(43.6%)で最も多く、次いで、燃え殻が40千トン(14.3%)、汚泥が29(10.1%)、がれき類が26千トン(9.3%)、鉱さいが25千トン(8.7%)等となっている。



(3) 前回調査との比較

産業廃棄物の発生及び処理・処分の状況について、前回の調査（平成20年度実績）と比較すると、次のとおりである。

今回の調査では、発生量が前回に比べ4.2%増加しており、資源化率が61.0%から57.1%へ3.9ポイントの低下となっている。中間処理による減量化では逆に20.3%から26.2%へ5.9ポイントの上昇となっている。

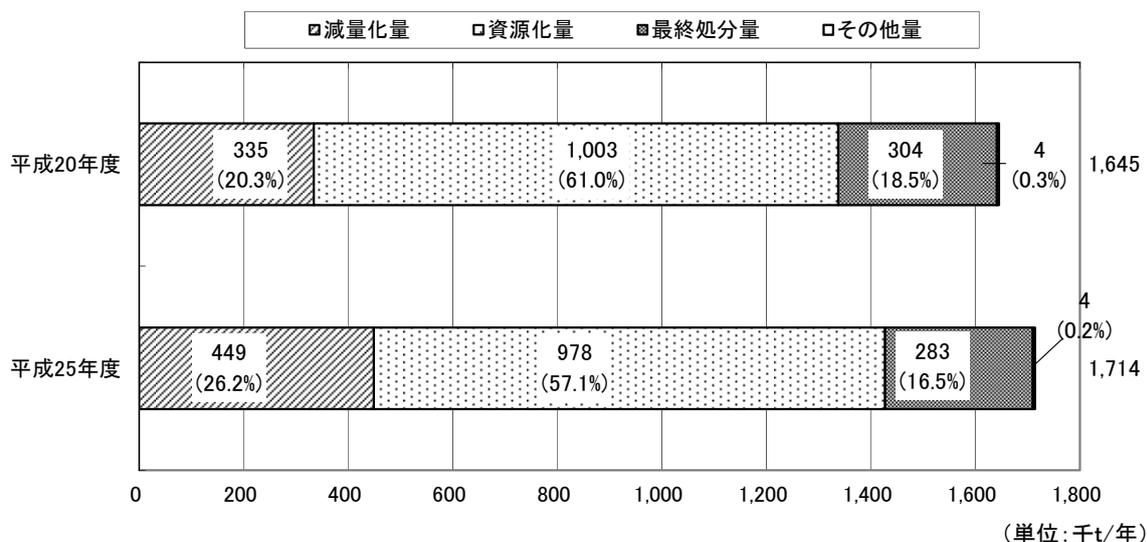
また、最終処分率は18.5%から16.5%へ2ポイントの低下となっている。

処理・処分状況の比較

(単位：千t/年)

項目	平成20年度		平成25年度		増減量	増減率(%)
発生量	1,645	100.0%	1,714	100.0%	69	4.2%
資源化量	1,003	61.0%	978	57.1%	-25	-2.5%
有償物量	34	2.0%	27	1.6%	-7	-19.6%
再生利用量	969	58.9%	951	55.5%	-18	-1.9%
減量化量	335	20.3%	449	26.2%	115	34.3%
最終処分量	304	18.5%	283	16.5%	-21	-7.0%
その他量	4	0.2%	4	0.2%	0	13.9%

注) 表中の%表示については、四捨五入しているため、総数と個々の数値の合計が一致しないものがある。

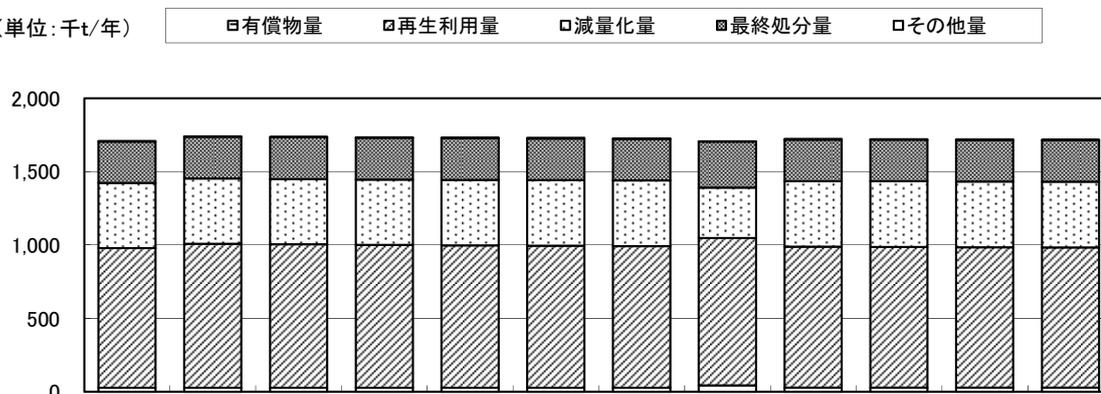


(4) 発生及び処理状況等の将来予測

発生及び処理・処分の状況の将来予測結果は、次のとおりである。

将来の発生量及び排出量は、このままの推移でいくと、増減はあるが、緩やかに増加していくものと見込まれる。

(単位:千t/年)



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
発生量	1,714	1,746	1,743	1,739	1,737	1,734	1,732	1,707	1,727	1,726	1,724	1,723
有償物量	27	27	27	27	27	27	27	42	27	27	27	27
排出量	1,687	1,720	1,716	1,713	1,710	1,708	1,705	1,665	1,701	1,699	1,697	1,696
再生利用量	951	981	977	973	970	968	965	1,006	961	959	957	955
減量化量	449	450	451	451	452	452	453	343	453	453	454	454
最終処分量	283	285	284	284	284	284	283	313	283	283	283	282
その他量	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4

注) 表中の数値については、四捨五入の関係で合計と個々の計とが一致しないものがある。

注) 表中の%表示については、四捨五入しているため、総数と個々の数値の合計が一致しないものがある。